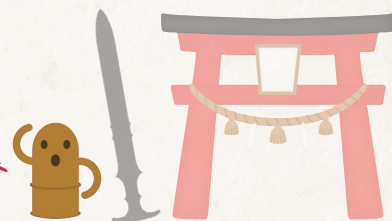


郷土を知る
むかしむかし

昔々の そお市

冊

第64回



日誌から見る80年前の日常

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

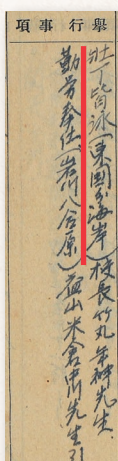
今

回は80年前の日常を記録したあ
る日誌を紹介します。

日誌のタイトルは「財部青年学校日誌」です。青年学校とは現代の中・高生頃の年齢の男女を対象に学科や農業、教練※などを教えていた義務制の学校です。日誌は職員が学校行事などを記録したもので、本来であれば戦後に処分されるはずでしたが、当時の職員が大切に保管していたため現在に残されました。

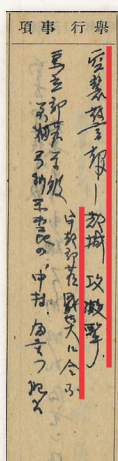
一部を抜粋してご紹介します。

○昭和19年7月31日(月) 曇・雨



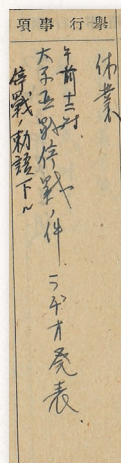
7月31日の記録では、勤労奉仕という言葉が見えます。当時の学生たちは学業に専念できず、奉仕という形で様々な作業に従事していました。ここで岩川八合原という地名から、岩川飛行場建設に関わる作業ではないかと推察されます。

○昭和20年8月6日(月) 天気記載なし



昭和20年に入ると連日のように空襲警報という言葉が綴られるようになります。そして8月6日は都城が空襲を受け、財部町宇都郡地区にも被害が出たと記されています。戦火が身近に迫った状況が読み取れます。

○昭和20年8月15日(水) 晴



終戦の日の記録は、「午前十二時大東亜戦停戦ノ件ラヂオ発表 停戦ノ勅語下ル」とだけ記録されています。この日、財部の町はどのような様子だったのでしょうか。

終戦後、日誌に緊迫した記録は見られなくなり、防空壕の埋め戻しや戦没者の慰霊祭などが行われたり、農作業の記録が主になっていきます。

戦後80年を迎え、当時を証言する人はわずかになりつつあります。「財部青年学校日誌」のような物言わぬ資料から、戦争の悲惨さや平和の尊さを感じ、学びとることがこれからの世代の大切な役割ではないでしょうか。

曾於市史編さん情報局

曾於市にゆかりのある資料・写真・情報をお持ちの方は生涯学習課までご連絡ください。



左の写真は、最近ご提供頂いたもので、昭和47年頃の末吉家畜市場（現末吉総合センター）です。



※教練………軍事的な基礎訓練



財部青年学校日誌(表紙)

末吉歴史民俗資料館に展示中